

第1回「高度な自動走行・MaaS 等の社会実装に向けた研究開発・実証事業」

終了時評価検討会

議事要旨

1. 日 時 令和3年1月22日(金) 15:00～17:00

2. 場 所 オンライン開催(Skype会議)

3. 出席者

(検討会委員)[敬称略・五十音順、※は座長]

※石田 東生 筑波大学 名誉教授・特命教授
高田 広章 名古屋大学未来社会創造機構 教授
谷口 綾子 筑波大学システム情報系 教授
毛利 宏 東京農工大学大学院工学府機械システム工学専攻 教授
横山 利夫 一般社団法人日本自動車工業会 安全技術・政策委員会
自動運転部会 部会長
本田技研工業株式会社 四輪事業本部ものづくりセンター
電子制御開発統括部 Executive Chief Engineer

(研究開発実施者)

錫村 朋宏 豊田通商株式会社 課長補 他
加藤 晋 国立研究開発法人産業技術総合研究所 ヒューマンモビリティ研究
センター 首席研究員
谷川 浩 一般財団法人日本自動車研究所 ITS研究部 部長 他

(事務局)

製造産業局 自動車課ITS・自動走行推進室
室長 植木 健司
係長 久留島 達也 他

(評価推進課)

産業技術環境局 研究開発課技術評価室
技術評価専門職 吉部 明信 他

4. 配布資料

資料1 評価検討会委員名簿

資料2 研究開発評価に係る委員会等の公開について

資料3 経済産業省における研究開発評価について

資料4 評価方法(案)

資料5 評価コメント及び評点票

資料6 技術評価報告書の構成(案)

資料7 評価用資料

資料8 補足説明資料

質問票

参考資料1 経済産業省技術評価指針

参考資料2 経済産業省技術評価指針に基づく標準的評価項目・評価基準

参考資料3 中間評価報告書(平成29年7月)

5. 議事概要

(1)開会

事務局から資料1により委員の紹介を行った。また、委員の互選により、石田委員が座長に選任された。

(2)研究開発評価に係る委員会等の公開について

事務局から資料2により、評価検討会の公開について説明がなされた後、本評価検討会について、会議、配布資料、議事録及び議事要旨を公開とすることが了承された。

(3)評価の方法等について

評価推進課から資料3により、事務局から資料4、6により、評価の方法等について説明がなされ、了承された。

(4)事業の概要について

事務局及び実施者から、資料8により、「高度な自動走行・MaaS等の社会実装に向けた研究開発・実証事業」の概要について説明がなされた。

主な意見等は以下のとおり。

- トラック隊列走行は、隊列をテクニカルに作ることも、どこで運転手を乗せ、どこで隊列をばらすのか、そのスペースをどうするのか、という全体のフレームワークを今後やってもらいたい。
- レベル4は民間の自動車会社も手を出してこないところなので、ラストマイルの成果は広報した方が良い。
- 自動バレーパーキングは、国の事業としてやるのは1番ふさわしかったと思う。標準化に繋がったということに対しては大きな成果。

- アウトプットで、国内特許は出ているが、国外特許が出ていないことが気になった。
- アウトカムの部分は、自動車メーカーが単独で実施できないようなことを、国が協調領域としてやったというアウトカムのストーリーを作る必要がある。
- アウトプットやアウトカムは数値的には達成されているが、具体的な中身が重要であり、国でやることの目的に照らして評価すべき。
- 費用対効果を見るために、評価対象事業分の金額を整理してもらった評価しやすいので、クリアにしてほしい。
- 費用対効果で、何がベネフィットなのか、何と比較して高い、低いのかがよく分かりにくい。日本国民としての将来的なベネフィットがどうなるのかがわかると良い。

(5) 今後の予定

事務局より資料5から、評価の方法等について説明し、質問票の提出期限を1月29日、評価コメント表の提出期限を2月5日とすることを確認した。(また、事務局より後日修正資料を送付することとなった。)また、第2回検討会の審議方法について、座長と相談して決定することになった。

以上

お問合せ先

〒100-8901 東京都千代田区霞が関1-3-1

製造産業局 自動車課 ITS・自動走行推進室

TEL 03-3501-1618

FAX 03-3501-6691

E-mail itshann@meti.go.jp